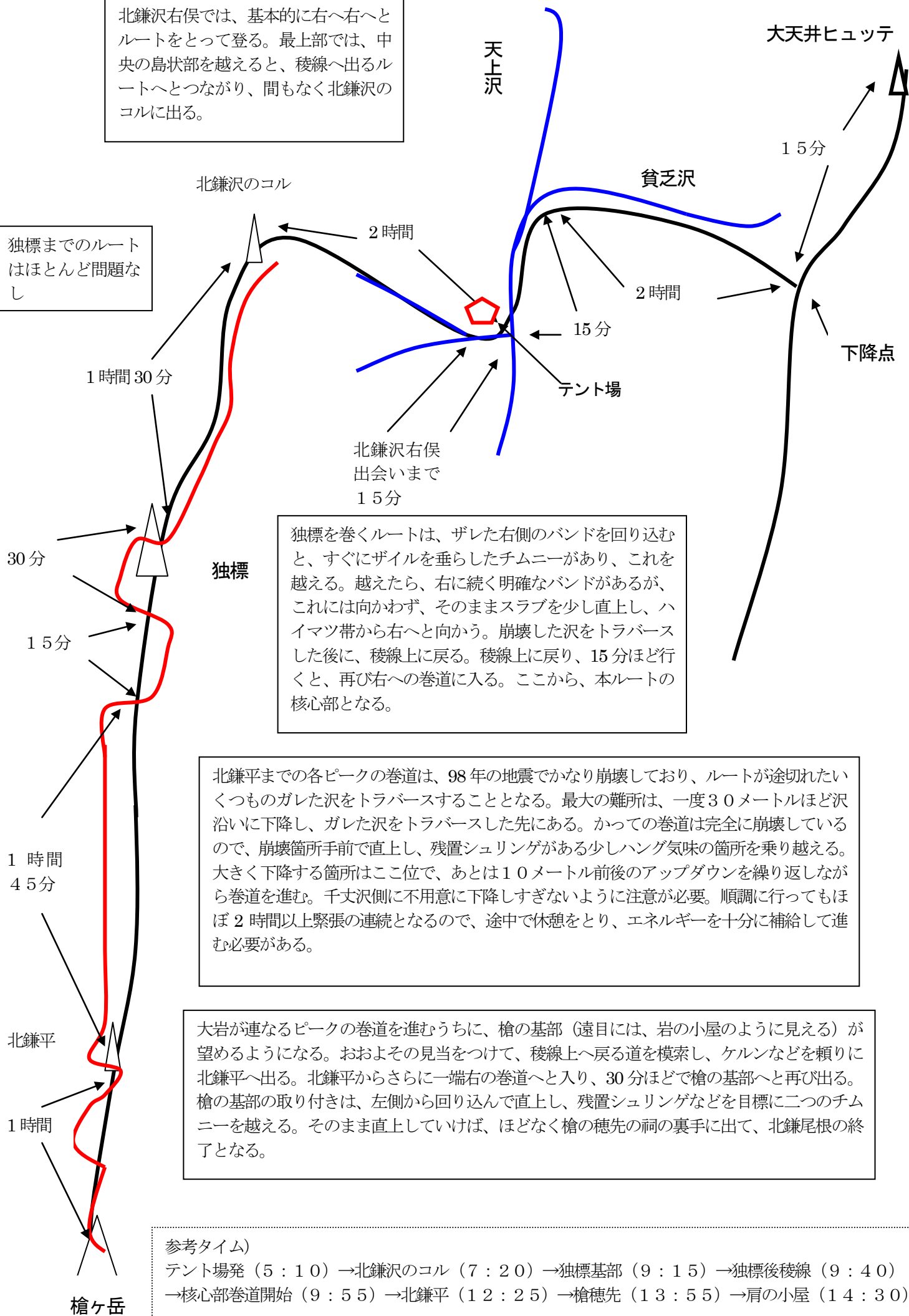


北鎌沢右俣では、基本的に右へ右へとルートをとって登る。最上部では、中央の島状部を越えると、稜線へ出るルートへとつながり、間もなく北鎌沢のコルに出る。

独標までのルートはほとんど問題なし



独標を巻くルートは、ザレた右側のバンドを回り込むと、すぐにザイルを垂らしたチムニーがあり、これを越える。越えたら、右に続く明確なバンドがあるが、これには向かわず、そのままスラブを少し直上し、ハイマツ帯から右へと向かう。崩壊した沢をトラバースした後に、稜線に戻る。稜線に戻り、15分ほど行くと、再び右への巻道に入る。ここから、本ルートの核心部となる。

北鎌平までの各ピークの巻道は、98年の地震でかなり崩壊しており、ルートが途切れたいくつものガレた沢をトラバースすることとなる。最大の難所は、一度30メートルほど沢沿いに下降し、ガレた沢をトラバースした先にある。かつての巻道は完全に崩壊しているので、崩壊箇所手前で直上し、残置シュリングがある少しハング気味の箇所を乗り越える。大きく下降する箇所はここ位で、あとは10メートル前後のアップダウンを繰り返しながら巻道を進む。千丈沢側に不用意に下降しすぎないように注意が必要。順調に行ってもほぼ2時間以上緊張の連続となるので、途中で休憩をとり、エネルギーを十分に補給して進む必要がある。

大岩が連なるピークの巻道を進むうちに、槍の基部（遠目には、岩の小屋のように見える）が望めるようになる。おおよその見当をつけて、稜線へ戻る道を模索し、ケルンなどを頼りに北鎌平へ出る。北鎌平からさらに一端右の巻道へと入り、30分ほどで槍の基部へと再び出る。槍の基部の取り付きは、左側から回り込んで直上し、残置シュリングなどを目標に二つのチムニーを越える。そのまま直上していけば、ほどなく槍の穂先の祠の裏手に出て、北鎌尾根の終了となる。

参考タイム)  
 テント場発 (5:10) → 北鎌沢のコル (7:20) → 独標基部 (9:15) → 独標後稜線 (9:40)  
 → 核心部巻道開始 (9:55) → 北鎌平 (12:25) → 槍穂先 (13:55) → 肩の小屋 (14:30)